

羽村市の《協働》

〜ゆとりぎ市民の会〜

人が人と交流する 「文化のビタミン」

—ゆとりぎ—

26万9767人。これは昨年度、ゆとりぎを利用した方々の数。

日本は世界の最長寿国になりました。私たちが一生涯を通じて学習できる余暇時間も世界最長グループにランクされています。こうした時代を見越して平成18年3月に誕生したのが羽村市生涯学習センター「ゆとりぎ」です。

子どもから大人まで、いつでも、誰でも、楽しく、学び、遊び、創造し、そして交流できる。ゆとりぎってなんと魅力的な施設でしょう。



↑ゆとりぎロビーで交流する観客

交流によって 育まれる「きずな」

開館以来、ゆとりぎでは、歌手の加山雄三さん、レニングラー楽団、そのほかにも、落語、狂言、文楽、雅楽などの伝統芸能、そして、はやぶさやすばる望遠鏡などの科学分野など、バラエティに富んだ最高の芸術文化を、また、文化学習の分野では、パソコン講座、親子陶芸教室、明るい「定年」を迎えるための総合講座、子育て中の父母のための講座、地域の芸術家の作品を紹介し、作家と市内小学生が交流するアート・inはむら展、能面作品展—新井達夫面を打つ—などの様々な講座や展示会を開催しています。

こうした事業は、皆さんの生涯学習への関心を高め、参加を促進し、併せて社会教育関係団体の活発な活動につながります。市民が交流し、生涯学習という共通の目的に向かってお互いを高めあい、や

がては強い「きずな」が育まれ、人の成長とともにまち全体が発展し、より暮らしやすいまちがづくりあげられていくことでしょう。

発展・進化する協働

羽村市教育委員会が主催して皆さんにお届けしている学習・文化講座、講演会、芸術鑑賞などの生涯学習事業は、ゆとりぎ協働事業運営市民の会（ボランティア100名）との協働で進められています。現在は「市民と行政との協働」に留まらず、日野自動車、杏林大学、青梅佐藤財団、JAXA、西武信用金庫といった市内内外の企業・学校・団体などとの協力関係にも発展し、「きずな」は日々進化しています。

ゆとりぎ協働事業運営市民の会ができる発端は、平成17年7月の広報紙「生涯学習施設（仮称）西棟（現ゆとりぎ）の運営に参加してみませんか」という募集記事でした。これは、

西棟ができる以前に出された市民会議の提言などに見られる「市民と行政との協働」という発想から生まれたものです。その後、様々な見直しが行われ、ゆとりぎの開館とほぼ同時に市民の会は誕生しました。事業の企画運営だけでなく、舞台・音響などをサポートするグループ、中でも、大・小ホールでの公演などでお客様をおもてなしする「レセプションニストの会」は、近隣にはないユニークな存在です。ゆとりぎは市民文化発展の



↑企画・運営を検討する市民の会役員の皆さん



↑ズーリアン・プラスファミリークラシック演奏者との記念撮影風景

ためのいわば“ビタミン”です。ゆとりぎ協働事業運営市民の会に参加して、あなたも楽しく充実した余暇を体験し、「きずな」を深めてください。

宣言文

本日、ここに私たち羽村市民の長年の夢を実現する、羽村市生涯学習センターゆとりぎが開館しました。このゆとりぎには、郷土を愛する羽村市民の深い思いと希望がこめられています。老若男女、市民の誰もが自由に、生き生きと活動できる生涯学習の拠点づくりという念願が叶うまでの道のりには多くの困難がありました。二十一世紀の生涯学習のあり方を追求し、構想をあたため、議論を尽くし、まさにレンガをひとつひとつ積み上げるように準備を進めてまいりました。

私たちはこのゆとりぎにおいて行政と協働して行う事業の企画・運営に当たり、調和と融合の信頼関係を構築します。よって私たち羽村市民は、地域はもちろん世界の文化、芸術に深く親しみ、教養を高め、共に学び、教えあうことの喜び、交流を通して、家族、友人、志を同じくする仲間と一緒に、実り多い人生を歩んでまいります。そして、ゆとりぎを知識と友愛と協働の情報発信基地として一生涯を通じて活用し、充実した羽村文化の育成と豊かで温かい地域づくりを目指して、邁進することをここに宣言します。

平成十八年三月二十五日
羽村市生涯学習センターゆとりぎ
協働事業運営市民の会
会長 関 沢 和 代